

# JAAC だより

## 特別コラム：“東日本大震災から 100 日・・・”

— 消えぬ被災地の傷跡、癒えぬ人々の心 —

6月18日、土曜日。震災から100日目を迎えました。千年に一度と言われる巨大地震と想定外の大津波。人々の生活を一変させた痛ましい出来事から、未だ被災地の傷は消えず、被災した人々の心は癒えることを知りません。警察庁が日々まとめた被災者数（死亡者と行方不明者数）が毎日の新聞の一面に記されています。この度の震災による被災者の数は約2万4千人と言われ、未だに8千人近くの方々の行方が不明のままです。このような状況のなかで、震災から100日目にあたる18日、被災地各地で法要や式典が行われました。ここに改めて、亡くなられた多くの方々のご冥福と行方不明になられた方々の早期発見をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げたいと思います。

震災から100日というと、一つの区切りのように聞こえますが、被災した方々にすれば『もう、100日。まだ、100日』という複雑な心境だとお察しします。未だにご親族や友人が行方不明のままの方々にとっては、3ヶ月経とうが、100日を過ぎようが、ご親族の安否が確認できない限り、経過した日数自体にあまり意味は無いように思えてなりません。また、多くの警察官や海上保安官らによって懸命に続けられているご遺体の捜索活動がいつまで行われるのか、震災から何日目という節目、区切り、の数字が捜索活動の規模や期限を決めるとするならば、その数字は大きければ大きいほど良いに決まっています。本誌の前号で記した岩手県釜石市出身の私の友人も、親しい人を震災で失くし、未だに安否がわからないままの多くの知り合いを持つ人の一人です。彼にとって、この節目となる100日目は『まだ、100日・・・』であり、行方不明の友人の無事に一縷の望みを持ち続けている一人なのです。彼の遠縁にあたる人たちは、依然、避難所暮らしを余儀なくされていて、仮設住宅へ移り住むことを心待ちにしています。そのご家族のお子さんたちは、他の地域の学校に通い始めました。この100日間の間に、少しずつではありますが、確実に状況の改善が図られているようにも見受けられます。

一方で、津波によって押し流され、崩壊した家屋や建物が瓦礫となり放置されている箇所が多く残されています。瓦礫の下から時折ご遺体が見つかることもあり、瓦礫の撤去や片付け作業には細心の注意を払わねばなりません。こうして何気なく“瓦礫”と書き綴っていますが、それらは本来、その場所で生活を営んでいた人々の大切な財産の一部であり、最も身近で貴重な品々だったはずです。ですから、安易に“瓦礫”という一言で言い表すべきものではないことは十分に承知しているつもりです。新聞やメディアで報じられている内容の語句の一つひとつが、それらを受け取る者によっては意味が異なることを理解しておかなくてはなりませんね。避難所生活を強いられている方々の目に実際に映る被災地の光景は、TVの映像や新聞等の写真を通じてしか見ることができない私たちの目に映るものとは違うものだと思います。被災した人々の故郷が負った外傷（キズ）は大きな傷跡となって、未だに治ってはいないのです。

時の経過と共に、ボランティアの数も減少し、街角で義援金募金を募るボランティアグループの数も心做しか減ってきているように感じられます。また、名のある芸能人やスポーツ選手らによる被災地の方々への慰問も一時期に比べるとその頻度が減っているようにも見受けられます。しかし、彼らの活動が被災した人々の心を元気付け、勇気付け、癒し、そして、多くの避難者の方々にたとえ一時ではあっても笑顔を取り戻すことを思い出させてあげたことは大きな貢献と言えましょう。『頑張ろう、日本!』を合言葉に、国の内外で活躍する各界の著名人たちの功績は著しいものだと思います。さらには、外国の方々が自国から被災地と日本に向けて暖かい応援メッセージを送り続けていただいていることに、私たち一般人も感謝の気持ちを持ち続けなくてはなりませんね。震災から100日目を境に、その翌日から気持ちを大きく変えることはできません。しかしながら、この100日間を振り返ってみて、『これから私たちがやるべきことは何なのか、何ができるのか・・・』を考えてみる時期（とき）が来たのではないのでしょうか。東北の被災地から離れているところに暮らしていると、他の出来事や日々の生活に気を奪われがちになり、被災地の方々のことが私たちの記憶から薄れ始めていくように感じる時もありますね。そう感じるのは私だけでしょうか。時折起こる余震が、この度の震災が未だ終わっていないことを私たちに思い出させているようにさえ感じます。ボランティアとして身をもって何か特別なことができなくても、被災された大勢の方々が一日も早く心の平安を取り戻されるよう願い続けて、被災地の皆さんと強い心の絆で結ばれていることを常に感じるように努めたいものですね。

(カリフォルニア事務局： 照井)

－ 多種多様化する海外での学習内容 －

一般的に“留学”ということばから想像することは、語学留学や高校、大学、大学院などへの進学など、語学の習得や教養、専門科目を習得して資格や学位を取得するというものです。ここ10年くらい前から、比較的短期間ではありますが、海外で資格取得を目的として“留学”する人たちが増えてきたと思います。最近では学習する内容も、美容、ファッション関係、映像、バーテンダー、クッキング、メイクアップ&ネイルアート、ジュエリーアート、ダンス、ヨガ、ピラティス、等々、と数え上げたらきりが無いほど多岐に渡っています。これらの分野は学位を取得するものではありませんが、その分野の専門資格が取得でき、その道の仕事に従事する際にも通用するものです。また、趣味を活かして自分なりに勉強できるという手軽さや気軽さもあるのだと思います。もちろんこれらの分野は日本でも習得することが可能でしょうが、その分野の本場に行って直接指導を受けることを目的とする人たちが多いようです。期間は2週間という短期のものもあれば、半年から1年以上という本格的な専門職養成の講座もあります。考え方によっては、これほど“留学”を身近に感じるものはありません。年齢も幅広い層の方々がいて、しかも国際色豊かな環境で学べるのであれば、自然と語学も身につくのではないのでしょうか。

インターンシップ募集の案内に思うこと

今年も多くの企業が就職活動をしている大学生を対象とした企業内インターンシップの申し込みを受け付けています。インターンシップを経験することで、外からは見えなかったその企業の実態や職場環境、実際の実務内容などが体験できます。このことによって、就職後に感じる自分自身とその会社とのミスマッチを防ぐことにも役立ちますし、結果として、入社後に短期間で退職する割合も減ることを期待しています。また、当該企業の人事課担当者が面接だけでは分からない学生の資質や性格、スキルなども、インターンシップを通してより学生のことを知る良い機会となっているようです。学生にとっても、社会人を模擬的に体験することになるので、社会人としての人との接し方、話し方、礼儀作法や所作といったことを学ぶ絶好の機会となるのです。そういった意味から、インターンシップは学校と社会を繋ぐ架け橋のようなシステムかもしれませんね。しかしながら、最近ではこのインターンシップ生として合格することが、その企業での採用に繋がる第一歩と考えられることもあり、就活をする学生には余計な負担がかかってきているようにも見受けられるのです。日本の大学生が受けるインターンシップとアメリカで日本人留学生が受ける企業インターンとは、どうも根本的に異なるものようです。

【編集後記】消費電力の削減を目的として、東京都庁では今月6日からサマータイムを導入した。これに倣うように大手企業でも次々にサマータイムを導入している。また、メーカーを中心とした企業では節電効果を狙って土曜と日曜を出社日として、平日に休みを取るようになるようだ。これで本当に節電の効果があるのだろうか■経営の一新を図っているJAL（日本航空）が4月から機体の尾翼に描くロゴマークとしてあの“鶴丸”を復活させた。私個人としては、やっぱりJALは“鶴丸”でなきゃ！！という想いである。1970年代後半のアメリカ留学時代、空港に駐機してあった“鶴丸”を見て何度遠い日本のことを思ったことか◆航空会社の話題といえば、全日空（ANA）が日本初の格安航空会社（LCC）Peach（ピーチ）を設立し、2012年春から関空を拠点として就航させる予定だ。アジアを中心としたLCC会社との熾烈な競争が予想される。我々にとっては安ければ大歓迎だ▼福島第一原発の話題が事欠かない。放射能汚染の心配はいつまで続くのか。野菜、果物、水産物への影響は・・・？ そういえば今年の臨海学校を中止する学校が増えている。海にも気軽に行けなくなってしまうのか▲ビジネスマンのクールビズという服装の規定（？）が定着したかと思ったら、今度はそれよりも軽装で一段とカジュアル感があるスーパークールビズ・ファッションが出た。最初からこんな格好で良いなら、昔から導入すればいいじゃないか。でも、仕事をする際にこのような服装ならば許可する・・・と、いったい誰が決めているのか●中国の広東省で地元の中国企業の倒産が相次ぎ始めた。中国のバブル崩壊が始まるのか・・・？ （照井）

Let me remind you . . .

★JAAC生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください。

◆就職活動をするJAAC生の皆さんへ：6月に東京ビッグサイトにおいて東京サマーキャリアフォーラムが開催されます。夏休みに帰省される方は是非この機会を有効に利用してください。詳しくは下記のURLから、<http://www.careerforum.net/event/tks/?lang=J&ref=smlbtn111005> をご参照ください。

また、今年の秋にロサンゼルスとボストンで開催されるキャリアフォーラムの予定は下記のウェブサイトをご参照ください。

ロサンゼルス：<http://www.careerforum.net/event/la/?lang=J&ref=smlbtn111101>

ボストン：<http://www.careerforum.net/event/bos/?lang=J&ref=smlbtn111005>

この他、インターネット上では海外大学卒業者（見込み者）を対象としたジョブフェア等の情報が掲載されますので、随時、各自でインターネットでの検索を行ってください。

●JAAC本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル0120-525-626 [tokai@jaac.co.jp](mailto:tokai@jaac.co.jp) 担当：高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木：[t.suzuki@jaac.co.jp](mailto:t.suzuki@jaac.co.jp) ©カリフォルニア担当：照井 [k-terui@mtg.biglobe.ne.jp](mailto:k-terui@mtg.biglobe.ne.jp)

